



「ありがとう」「と言ってくれて、
ありがとう。」

ありがとうを握手で伝え合う大田原小学校の児童たち

特集

「ありがとう運動」

誰もが実行でき、誰もが幸せになる。

いくらあげても無くならず、受け取っ

た人は、心が温かくなる。

疲れた人には癒し、頑張る人にはやる

気、すべての人に幸せをもたらす。

そんな魔法の言葉「ありがとう」

ありがとう

「ありがとう」は魔法の言葉

大田原発の小さな奇跡

子どもたちの自己重要感を高めるために始まった「ありがとう運動」。学校で育まれた「ありがとうの輪」は、市内の小中学校を飛び出して家庭や地域にまでに広がり、多くの人に笑顔と幸せをもたらしました。



ありがとう運動のねらい

「ありがとう運動」のねらいは、「自己重要感」を育てることです。

自信をなくしている子どもたちの心の中に、「自己重要感」が育てば、自信が生まれ、毎日楽しい学校生活を送れるのではないかと考えています。

学校から家庭へ、さらには地域へ、「日本一『ありがとう』があふれる学校づくり・まちづくり」を目指して、ありがとう運動の輪が広がることを心から願っています。



Tuyoshi Arae

大田原市教育委員会教育長
新江 侃

あらえ・つよし 1942年
旧黒羽町(現・大田原市)出身。小中学校教諭や県教委那須教育事務所長などを経て2010年8月から現職。子どもたちの自己重要感を育てるため、ありがとう運動を推進

「ありがとう運動」

市内全校実施

人間は本来、「人から認められたい。ほめられたい」「愛されたい」などといった自己の重要感に対する欲求を持っていきます。これを「自己重要感」と言います。現在、日本の子どもたちは、アメリカや中国など諸外国の子どもたちと比べて自己重要感が低く、自分に自信が持てないという結果

が出ています。

自己重要感が低く自分に自信が持てないと、不登校や中退、ひきこもりなどに影響があるのではないかと考えられています。

そのため、大田原市では子どもたちの自己重要感を育てるため、平成24年度から市内全小中学校で「ありがとう運動」を推進しています。

ありがとう運動は、子どもたちが学校や家庭、地域において、積極的に「あり



「ありがとう運動」を通して

大塚優太さん

大田原小学校6年 おおつか・ゆうた

ありがとう運動を始めて、「ありがとう」を言う機会が増えたと思います。日常生活の些細なところでも自然に「ありがとう」が言えるようになりました。友達に「ありがとう」を言われる機会も多くなりました。「ありがとう」を言われると、心が温かくなります。これからも、ありがとう運動を続けたいです。

ずっとずっと続いてほしい 「ありがとう朝会」

大関奈央さん

紫塚小学校6年 おおげき・なお



紫塚小学校では、ありがとう運動を活発にしているため、委員会やクラスで考えた内容を朝会の時に発表する「ありがとう朝会」をしています。

私はこの朝会のおかげで、「ありがとう。」と自然に言えるようになりました。これは、素晴らしい朝会だと思うので、いつまでもこの朝会が続いてほしいと思います。



集会で「ありがとうリレー」をしている佐良土小学校の児童たち

がとう」と声を掛け合う運動です。子どもたちは、ありがとうと言われることで「僕はみんなに認められているんだ」「わたしのやっていることは、学校や地域の役に立っているんだ。」と感じ、自信をもって明日から頑張ろう、という気持ちになります。そして、学校での友達関係や、家庭、地域での人間関係も良くなります。

平成24年度は湯津上地区、平成25年度は野崎地区をモデル地区に位置付け、各学校の積極的な協力のもと、ありがとう運動を推進しています。

誰にでも響く魔法 「ありがとう」

ありがとう運動を実施してから間もなく、子どもたちからは、「ありがとうと言われて、とても嬉しかった。」

た。「学校だけでなく、今度には家族でも言いたい。」など前向きな気持ちが生まれ、学校で積極的にありがとうと言われ、声を掛け合うようになりました。

言って嬉しい、言われて嬉しい。それが「ありがとう」の魔法です。

それから子どもたちは、この魔法の言葉を学校だけでなく家族や地域の人も、多くの人に積極的に声をかけるようになりました。すると、「孫にありがとうと言われて大変嬉しかった。」地域の子どもたちにも、ありがとうと言われてとても気持ちがいい。今度は自分からも言ってみよう。と地域の人の心も動き始めました。

いま、ありがとう運動は市内の企業などでも積極的に取り入れられるようになり、ありがとうの輪が大きく広がっています。

活動

ありがとう運動

と 声



- ①佐良土小学校・絵手紙／
- ②紫塚小学校・ありがとうTシャツ／③奥沢小学校・ありがとう与一くん



特集
special feature article



金丸小学校 Kanemaru Elementary school



一人一人の良さを引き出し、活躍する場を設定

ありがとうビー玉(5年生)



金丸小学校は少人数のため、6年間をほとんど同じメンバーで過ごしています。おたがいのことをよく知っているためか、自分の気持ちを言葉で表さなくても、なんとなく相手のことが分かってしまうようです。そのため「ありがとう運動」は友達に自分の気持ちをしっかり言葉で伝えるための環境づくりにも一役買っています。

5年生のクラスでは「ありがとうビー玉」を実施し、ありがとうの見える化を図っています。帰りの会で友達にありがとうを言う機会を設けていて、ありがとうを一つ伝えると、容器にビー玉を一つ入れることができます。ビー玉が容器に溜まると、それだけたくさんのありがとうが言えたことになり、みんなが気持ちで過ごすことができます。ありがとうが溜まってい

く様子は、子どもたちも嬉しいようで、ビー玉が入った容器を持ち上げて重さを確認したり、昨日とビー玉の数を比べたりしているようです。

「ありがとうビー玉が溜まっていくのを見て、もっとありがとうを言おうという気持ちになります。」と田辺理衣友さん。小川誉起さんは「もっといいことをして、もっともっとありがとうと言ってもらいたいと毎回思う。」と言い、二人はビー玉を容器に入れながら、楽しそうに話していました。

担任の渡辺先生は「些細なことでも友達にありがとうと言うことで、言った方も言われた方もにっこり笑顔になる。その瞬間を見ているのがとても楽しい。」と笑顔で言っていました。

渡辺真琴先生(中央)／田辺理衣友さん(右)／小川誉起さん(左)





金田南中学校

Kanedaminami junior high school



小坂佳代子先生(右)／益子美咲さん(中央)／佐藤康平さん(左)

楽しい・きれいな・開かれた学校 ありがとうプロジェクト

金田南中学校は、「笑顔とありがとうがあふれる教室」をキーワードに挙げています。

「授業の中でのありがとう運動の充実」を目指して、教師も生徒も一体となって推進しています。生徒が積極的に手を挙げて発言してくれた時、先生は心をこめて「ありがとう」と伝えます。生徒同士の間でも、自分の意見に対してアドバイスをもらった時などは「ありがとう」の言葉が飛び交っているようです。

今年から金田南中学校に赴任した小坂佳代子先生は、「教室にありがとうという言葉が溢れるようになれば、みんな自然と笑顔になります。そして、『楽しい授業』『わかる授業』がどんどん増えてきているようにも感じています。」と言っていました。そんな小坂先生は、同じ初任者の先生と一緒に「ありがとうプロジェクト」を展開しています。

ありがとうプロジェクトの一つに「ありがとう運動推進隊」があります。それは、恥ずかしくてなか



なか言葉に出せない人や、戸惑っている人などにとって心強い味方になるよう、全教職員と生徒会執行部、各学級の委員長・副委員長がたすきや腕章を身につけて、「ありがとう運動推進隊」となり、先頭に立ってありがとう運動を推進しています。

生徒会長の益子美咲さんと生徒会執行部の佐藤康平さんは、「最初はクラスのみならずもありがとうと言えていなかったが、推進隊のみんなが率先して活動していたら、だんだん言えるようになってきたと思う。」と声をそろえて言い、プロジェクトの効果を実感していました。



藤田 菜優さん
野崎中学校3年
ふじた・まゆ

私の教室では、帰りの会になると「ありがとう」が溢れます。その日、学級のために良いことをした人、授業で活躍した人のチェックをするからです。友達や先生から感謝されると、とても嬉しくなります。これからは教室で、学校でありがとうが溢れるようにしたいです。



大場 千裕さん
石上小学校6年
おおば・ちひろ

宿泊学習で、班のみんなが頑張っている良いところを見つける「ありがとうNo.1」をやりました。ほかにも、児童が家庭で仕事をやる「マイワーク」をしています。朝食に目玉焼きを作った時、家族から「ありがとう」と言われてとても気持ちが良かったです。

平成25年度モデル地区(野崎)

保護者の声

薄葉小学校保護者
坂本菜生子

1年生の息子が持ち帰ってきた「うすばっこありがとう通信」を見て、「ありがとう運動」を知りました。「ありがとう」が素直に口に出せる日常生活は、とても良いことだと感じ、まずは私が率先して夫や子どもたちに「ありがとう。おかげで」と言えるように、そして優しい輪がたくさん広がれば良いと感じました。

ありがとうの言葉は、その人の心を温め、喜びと自信を与える力があります。誰もが実施でき、誰もが幸せになります。誰もこの言葉なしでは生きていけません。あなたの「ありがとう」の一言で、明日から頑張れる人、あなたの「ありがとう」を、心から求めて

いる人が周りにはたくさんいます。疲れた人には癒し、頑張る人にはやる気、すべての人を幸せにする、そんな温かくて愛にあふれた魔法の言葉「ありがとう」。この小さな奇跡の言葉が、いま大田原で広がっています。

— arigatou

特集

トピックス

健康
おたわら塾

子育て

健康・福祉

くらし

年金・国保

教養・文化

教育

スポーツ

税

産業

イベント

地域のひろば